令和４年度第５回「知事と一緒に生き活きトーク」議事録

１　テーマ：各地域の特色を生かした地域活性化の取組
　　～活力あふれ明るく笑顔で暮らせる備前地域
２　日　時：令和４年１１月２５日（金）　10:00～11:10
３　場　所：産業振興ビル（玉野市築港１－１－3）
４　参加者：地域づくり推進賞を受賞した備前県民局管内の特色ある地域づくりに取り組んでいる方など　６名

５　知事挨拶
・備前地域の地域づくりに関わられている皆さま方から、お仕事の話や地域づくり推進賞の受賞内容、普段の活動の様子などを聞かせていただきたい。
・また、これからの抱負や、可能性を感じていることなども、お互い情報交換しながら話ができたらと考えている。

６　発言内容等
【自己紹介等】
・私の会社では、社員からボランティアを募り、地域の小中学校に出前授業で３つくらいのコンテンツによりＳＴＥＡＭ教育を行っている。そのうちの一つは、生業である電子部品を用いたロボット作りで、生徒にロボットから理科に興味をもってほしいとの思いからスタートした。
・最近では環境を意識した簡単な電子回路を使った省エネ風力や、「先生ロボット」といった簡単なプログラミングなども生徒に提供して興味をもってもらい、喜ばれている。
・生徒や地域の方から喜ばれることが、社員のモチベーションや生きがいにつながっており、会社としても社員のエンゲージメントを高めることに役立っている。この活動をもっと強化していきたい。
・本業は薬局の薬剤師で、玉野商工会議所副会長をしている。玉野で生まれ育ち、漫画家の「いしいひさいち」先生は近所で親同士が知り合いだったという縁がある。
・商店街の会長をしていた際、玉野をなんとか良くしたいという思いで、県職員の幼なじみ(現玉野市長)と２人で、「がんばれ！！タブチくん！！」と「ののちゃん」を使った街づくりをしたいと、先生にお願いし、快く了解いただいた。ＮＰＯ法人をつくり、色々と地道に地域のイベントに出たり、展示などをしてきた。玉野市のイメージキャラクターにもなり、原動機付自転車のバイクにののちゃんの絵が付いている。毎年「ののちゃんカップ」とい

うバレーボール大会もしている。
・吉備中央町の通所付添サポーター協議会の代表をしている。協議会を立ち上げ５年となる。ドライバーも同じように年を取り、高齢化が課題だ。
・最初は少なかったが、現在、町内８カ所の協議会７０名のサポーターがおり、午前のお迎えと午後のお見送りを、狩猟の合間、酪農の合間、百姓の合間など時間が空いている際に、協力いただいている。
・元々は、高齢者の介護予防のための「集いの場」をしていたが、遠方の方が参加したいとなり、その手段をどうしようというのがサポーター制度のきっかけ。
・岡山市北区牟佐の町内会長をしている。短期のつもりで引き受けたが、２２年経った。
・電子町内会を岡山市に提案して２００２年に採用された。これの運営委員会をリアルの場で実施して以降、色々な人たちとの交流が増え、運動会、文化祭、餅つき大会、滝の復元など色々な動きが始まった。
・今回地域づくり推進賞をいただいたのは、猪、鮎、まつたけなどの地域資源を活用し、ジビエ料理や革製品などを作り、色々なイベントで販売する取り組み。地域の力のある方に表にどんどん出てきていただき、つないできた。
・三井 E&S ホールディングス玉野総合事務所の協力企業で、舶業の大型ディーゼルエンジンの部品の機械加工や組み立てを行っており、再来年、創業 100 年を迎える。
・私の考え方や行動は、雇用や教育がベースにある。今回、玉野市立商工高校機械課へのプロジェクトで地域づくり推進表彰を受けた。地方創生と造船技術の継承につながると思い、国土交通省のプロジェクトに手を挙げたのがきっかけ。玉野地区の活性化にあわせ、当社の社員のモチベーションアップに係る取り組みを評価していただいたと思っている。
・玉野市で移住支援をしている。広島市出身で大学のガラスコースに進むため岡山に来たのが、岡山とご縁ができたきっかけ。卒業後、自分の作業場を広島に持つか岡山に持つか迷っているときに、宇野駅の東にアトリエが出来るという話を聞き、2007 年玉野に移住した。
・玉野で暮らす中、若い人が立ち寄れるような場所があったらいいなと考えていた際、2010 年に玉野市中心市街地活性化基本計画のもと、様々な部会が立ち上がった。その中のアート部会に参加し、取り組みとして、クリエイティブな人の移住支援をしようというのが「うのずくり」プランが立ち上がったきっかけ。
・玉野市に「住んで」「作って」もらう人を増やしたいということで、造語として「うのずくり」という言葉にした。2011 年から活動を始めて、これまで

に 99 組 180 人の移住や開業の手伝いをさせていただいた。
・2016 年からは玉野の移住コンシェルジュとして市と一緒に移住支援をしている。移住された方が、宇野港を中心に色々なお店や宿泊施設、ショップを開いており、少しずつ若者が楽しめる所が増えてきたと思っている。

【今後の取り組み、展望など】
・部活のような形で SDG s の実践活動を始めたところ。100 人近くの社員が参加し、それぞれ住んでいる地域の困り事などをかき集め、行政ニーズも汲み取り、社としてできることとマッチングするなど、取り組みがどんどん膨らみ、醸成されてきている。
・最終的に、企業が永続的に活動できるとなるとボランティアではなく財務面で一定の利益を伴う中で上手にやらないといけないと感じている。また、協賛ネットワークを広げることができれば、もっとハブを大きくでき、永続性のあるものになってくると感じる
・電子部品の総合メーカーとして、エレクトロニクスにおいてイノベーションを起こすことと、将来の少子高齢化や地域づくりの問題がマッチングできれば、相互にハッピーになれると思っている。
・岡山県にも色々な港があるが、人流港・観光港としては宇野港が一番だ。王子が岳からずっと続く動線の中で、宇野港を観光資源として「ののちゃん」と一緒に、人が楽しめる港にしたい。
・我々ＮＰＯが中心となり、移住者、企業や行政、商工会議所、観光協会、ボランティアの方々、お隣の豊島直島などとも協力し、ゴミ拾いや花を植えるとか小さなことから、岡山県で一番綺麗な港「宇野港」を目指してやっていきたい、というのが今後の目標。
・通所付添サポーターのドライバーは、介護技術や運転技術をはじめ、高齢者の方に家から出てもらうのに、声かけの技術や安心感が必要。引きこもり、閉じこもり、孤立防止、認知症予防のため、また、情報取得の場としてもらうため、地域の高齢者の方をできるだけ「集いの場」に引き出したい。
・体操して皆でご飯を食べ、人と色んな話をしたり、フレイルの予防などで介護保険を受けるのを先延ばしにして、楽しい日々を送ってもらえたらと思う。そこで出会った人が繋がり、災害があった際などにも、「あんた逃げようや」となることを期待している。
・地域コミュニティというのは、災害時の避難所や猪の農作物の被害など危機意識に裏付けられているリアルの場。お金はないが、みな知恵と未来に対する責任感がある。
・岡山市は、区づくり推進事業として学区単位でユニークな取り組みを初年度

に８割、２年目からは５割の補助支援をしてくれる。横の広がりがあれば町内会単位でも可能だ。採択されればお金だけの問題ではなくて、行政からお墨付きがあるということで、町内会の総会で話がしやすくなる。

・ものづくりに携わる人材をいかに育成し、関心を持ってもらえるかが我々企業にとって一番大きな関心事。少子化高齢化で労働人口が減る中、玉野に魅力がなければ企業も関心を持ってもらえない。

・企業の若者が結婚すると、共働き家庭の増加などで市外に住居を構える人が多い。正確な数字でないが、私の会社では玉野市民税を納めているのは60％くらいだ。玉野市に住んで勤めてもらわないとまちに元気が出ない。

・雇用も教育も、一企業、一個人ではどうにもならない。市や県が玉野に大きな関心をもってもらえるようなアドバルーンを示してほしい。小学生の頃からのキャリア教育、一貫した人材育成というような、玉野の地域産業に資する施策が望まれる。

・玉野市には物件自体が少ない。空き家は多いが、それを活用する大家が少ない。また、家賃も高止まりしている。神戸市は人が住んでいない物件の固定資産税を更地と同等にしていると聞いた。大家が重い腰をあげる施策をすれば、移住者の受入体制が整うと思う。

【その他課題など】

・町内会組織は、法人化しても実際のマーケットなどに入ったときに、あまり相手にされないことがある。ぜひ地域コミュニティに対する認知度を上げてほしい。

・玉野市には市立高校が２つあり、玉野の強みだと思っている。うまい具合に何か新しいものが生まれるように、支援いただきたい。この２校を活かしていけば、玉野のこれからの若い人が育ってくれると非常に思う。

【知事まとめ】

・岡山県庁ですべての行政需要をカバーするには職員の数が全然足らず、職員数を増やすと税金(人件費)が膨大になる。より身近なそれぞれ２７市町村でいかに頑張っていただくか、区、町内会、それぞれの地域コミュニティの人、商工会議所、それぞれの会社で頑張ってくださるかどうかになる。

・ご縁で岡山に来た方々が、岡山に残って元気にしてみよう、より居心地の良い地域にしてみようみたいなことをしていただくと、本当にそれぞれの地域が良くなる。皆さん、ぜひこれからも頑張っていただきたい。